

# ともに生きるために いまなにかできますか

もうひとつの視点から考える  
「子育て」  
祖父母と  
父母と  
地域と



男女共同参画へ一歩いっぽ。〔パ・ザ・パ〕

# Pas ā pas

No. **14**  
2010 MARCH

# ともに生きるために



いのちを育てる営みのなかから  
見えてくるものが あります

自分自身の生きがた  
親と子のありがた  
地域の人間関係  
世の中のいろいろな仕組み  
エトセトラ

**祖父母と 父母と 地域と**  
もうひとつの視点から考える「子育て」

子育ても 孫育ても  
とても狭い世界のここのように見えるけれど  
さまざまな人とのガガわりが  
「ともに生きる」ことの大切さへの  
気づきにつながっていけば  
そこから 広い世界が開けます

「子育て」は  
「自分育て」にもつながっていくのです

# いまなにかができますか

# さまざまな愛をうけて 孫はすくすく育ちます

「祖父母の孫育て」について静岡市中央子育て支援センター  
所長 山岸陽子さんにお話をうかがいました。

静岡市中央子育て支援センター所長  
山岸陽子さん

山岸陽子（やまぎし・ようこ）さん  
静岡市在住。昭和44年から市立保育園に勤務し、平成8年静岡市立保育園初の子育て支援センターを中村町保育園に開設したほか平成18～19年静岡市内公私立保育園保育士会（ときわ保育士会）会長をつとめた。平成19年3月城東保育園長をもって退職したのち現職。



## ★心が豊かになる「孫育て」

祖父母の孫育ては、とてもいいことだと思います。祖父母がいると、子どもの心が豊かに育つと思います。（核家族がだめというわけではありません）祖父母とのふれあいから、経験も豊かになるでしょう。

私も2世代で子育てをしました。助けてもらって、仕事が全うできたと思っています。夫の両親は農業をやっていましたので子どもは保育園に預け、お迎えは義父が行き、私たちが帰るまでは、義父母が見てくれました。私が保育士だからというわけではありませんが、昼間保育園で保育してもらうことで、私も仕事を続けられ、また他の保育園の様子を

勉強することが出来ました。両親も昼間農作業をし、保育園の迎えを楽しみにしていました。

私が保育園長時代には祖父母で「お迎えが大変」という方はいませんでしたし、祖父母の方と話すことがとても楽しかったです。保育園行事には、遠くから泊りがけで来る方もたくさんいて、そのくらい祖父母にとって孫の成長は楽しみなものなのだと思います。私も、自分の孫の園行事に早く呼んでもらいたいと、今から楽しみにしています。

## ★感謝の気持ちがあれば うまくいきます

孫のお世話はラクではありません。ケガをしないかと、きちんと見守る必要もあり、昔とは変わってきました。たとえば、公園に連れていっても、砂場の砂はきれいか、ガラスは落ちていないか、砂を触ったその手を口に入れないか、など気を遣いますよね。孫を預かったら喜びもいっぱいありますが、責任もあります。そこで大変だと思うか楽しいと思

えるかは、祖父母の心持ち次第ではないでしょうか。

そして親は、祖父母に対して「みていてくれてありがとう。とても助かりました」という感謝の気持ちを忘れないことが大事だと思います。祖父母が見てくれるおかげで、親は仕事ができたり、美容院へ行ったり、買い物をしたり、自分の時間を持つことができます。この感謝の気持ちが祖父母とうまくいくコツで、配慮・思いやりではないでしょうか。そして、自分が親になってみて、自分を育ててくれたことへの感謝の気持ちも、実感できるのです。

私と同世代の人たちに聞いてみましたが、祖父母の孫育てに悪い点はあるという人はいませんでした。ただ、祖父母と父母の関係がうまくいっていないと子どもにとってマイナスになることはあるでしょう。

### ★孫にふりそそぐ さまざまな愛

祖父母は孫を甘やかすものです。父母から「お父さんお母さん、子どもに虫歯ができるとかわいそうだから3時のおやつは、こういうものにして下さい」とか、「おやつ時間を決めて、それ以外はあげないで」とか、言える関係ができていれば、甘やかすことにもそれほど神経質にならなくてもいいでしょう。

これは私の経験ですが、小さいころ祖母の家に行くとき必ず、夜寝る前に枕元に「陽子、おめざだよ」とお菓子を置いてくれたものです。翌日食べるのがどんなに楽しみだったとか。

今こうしてそのことを覚えていて懐かしく思い出話ができます。甘やかすのは、必ずしも悪いことではないと思います。

祖父母から孫はさまざま愛をもらいます。

その子は、他人にも愛を分けていけるようになると思います。だってその子の心のバケツには、あふれるくらい、好きだよ、大切な子だよと注がれた愛で満たされているのですから。

### ★口に出していえる関係づくりも

祖父母と父母の意見や価値観は違っていいのです。どっちが正しいという問題ではないのですから。もし意見が違ったら話し合えばいい。祖父母も「こう思ったからこうしたよ。それでよかった？」と聞けばいいでしょう。祖父母も父母も子どもを思う気持ちは同じですから。父母は祖父母に「私はこう思う、こうしてほしい」という話をする。それに対して祖父母は「わかった、今度そうするよ」とか「私はこう思うけど。あなたもこういう風にして育てたのよ」などといえればいいのでは？そうしたら父母も（そうか、私もこうしてもらったんだ）と嬉しく思うかもしれませんし、（いや、実はこうしてほしい）と思うかもしれません。そうやって思ったことを、感情的にならないように上手に伝えれば、「そう。あなたはそれが嫌だったのね。それならこれからはこうしましょう」ということになるかもしれません。お互い言い合える関係にしたいですね。表情でわかることもありますが、心は見えにくいから、特に子育てで祖父母に力を借りるときには口に出して話したほうがいいでしょう。

夫婦は仲良く、祖父母とも仲良くしていけたら、子どもは健やかに育つでしょう。他人に孫育てが大変だと言う人もいますが、嫌ではなくて、嬉しくてそう言う場合も少なくないと思います。

## ★大切なご近所との人間関係

保育園の保護者で、ご近所のおばあさんに時々子どもを預かってもらい、とてもありがたいと話す人がいました。これは、そういう人間関係その方が築いてきたからだと思います。昔に比べると、ご近所の方に子どもを預けることは減っていますね。預かるほうも、何かあると責任を問われますので二の足を踏んでしまいます。昔ほど気軽に預かれないという現実がありますね。

地域で孤立しないで、ご近所の方とあいさつしたり、ひと声「お元気ですか」「寒いですわね」と声をかけたり。そこから「お宅のお子さんいくつ？」なんて会話も生まれてきます。そういう関係から「大変そうだね。お子さんちょっと見てあげようか？」と相手の方も申し出てくれたり。子どもは地域で育てるという発想も大切にしたいですね。

## ★一歩踏み出す勇気を

子育て中の方は一歩踏み出す勇気があるといいかなと思います。今は社会福祉協議会員や、町内会、主任児童委員が、地区で色々な子育て支援活動をしています。そこで祖父母パワーをもっと生かせるといいですね。団塊世代の方たちはエネルギーがありますから町内の人のために何かしてあげたい、子どものために何かしてあげたい、という方もたくさんいるはず。町内の活動に少し顔を出してみたり、皆と関わっていききたいという気持ちを大切に、さまざまな環境・世代の人と知り合うきっかけをつくることをぜひおすすめしたいですね。

## ★今の親を育てたのは祖父母です

子育てでは、親と一緒にいる時間の長短は関係ないと思っています。親は「自分で育てなければ」という義務感に強くとらわれがちですが、子どももさまざまな人や物に触れるいい機会ですから、プラスに考えて、一時保育や保育園をご利用になってリフレッシュするのもいいと思います。

祖父母のパワーと経験で、忘れられてしまいそうな昔の遊びの文化を意図的に伝えたいですね。

祖父母の力は役に立ちます。いっぱい経験の引き出しがありますから。

祖父母は、孫の前で親の悪口を言わないことです。今の親は問題だと言われますが、その親を育てたのは私たちですから。

孫育ては、あまり将来のことまでは心配しません。それが子育てと違うところでしょうか。今がかわいい、早く大きくなってほしい、保育園・幼稚園に行かせたい、祖父母参観に行きたいなどと思うだけ。子どもの先のことはわかりませんが「あなたが将来どうなるか楽しみ～」と待っていればいいのです。楽しみをいっぱいもらえますから。

今までいろいろな子どもたちを見てきましたが、世の中には恵まれない子どもたちが少なくありません。そういう子どもたちの心をどう癒してあげられるかいつも考えています。

皆さんにもぜひ目を向けていただいて、子どもたちに愛情を注いでいただきたいと願っています。

# 自分の時間も大切にしながら ともに生きる幸せをめざして

「祖父母の孫育て」について児童文学者の草谷桂子さん  
にお話を伺いました。

児童文学者  
草谷桂子さん

草谷桂子（くさがや・けいこ）さん  
静岡市在住。家庭文庫を主宰して28年。日本  
児童文学者協会、童話創作グループ「かしの  
木」に所属。主な児童書に『白いブラウスの  
秘密』『青い目のお客さん』（偕成社）、『みど  
りの朝』（東京経済）、『さびしい時間のとなり』  
（ポプラ社）などがある。



## ★社会の底上げがないと 個人も幸せになれない

子育ては、時間とお金と情報のバランスがとれて初めてうまくいくのではないのでしょうか。育児放棄されているお子さんなど、ストレスの中で育つ子どもは、悩みを抱えています。そういった悩みを、幸せそうに見える人たちにぶつけてしまうこともあるでしょう。

ですから、社会全体の底上げがないと、決して個人も幸せにはなれないと思います。

私が文庫を開いている理由のひとつは、そこにあります。でも実際には、恵まれた子どもが来ることが多い。だから、さまざまな情報が、本当に必要な人たちには届いていないのではないかと感じます。

行政のすきまを補う支援を、民間でやっていければと思います。気持ちや経済的な面で少しゆとりのある人などが、そういう活動を担っていかねばと思います。現代社会で

は、一見恵まれているように見える親御さんたちでも、いっぱい悩みを抱えています。不登校、いじめ、家族間の育児方針の不一致など、たくさんの悩みを抱えて子育てしている方もいます。

個人が幸せになるというのが、とても難しい時代になってきました。そして、誰もが被害者にも加害者にもなりうる時代ですから、社会全体のことを、もっと真剣に考える広い視野が必要ではないでしょうか。

いろいろな問題を抱えた子どもがいるのが現実の社会なので、それを知らないままで済ませてはいけないと思います。障害のある方なども含めて、「ともに生きる社会」をめざしたいですね。

祖父母は時間があるので、たとえば、いっしょに夕食の調理をする、絵本などを読む、昔遊びを伝えたり、芋掘りなどの自然との交流もできます。祖父母は地域に長く関わっている所以で地域のことに詳しくたり、人脈も幅広い。そこを利用したらいいと思います。

## ★父母にも祖父母にも 「自立」が不可欠

息子の一家は、8年ほど前から隣りに住んでいます。孫は小学2年と4歳の女の子。夫婦は共働き。平日の夕方は孫を預かり、夕食はわが家で一緒に食べていますが、週末や祝日は別々に過ごします。私たち祖父母にとっても、メリハリと休みは必要だからです。お互いに無理のないように、話し合っ

作りをしています。

もしかしたら、夫婦で協力すればできることに祖父母が手を出すことによって、夫婦の自立の道を阻んでしまうことはないでしょうか。たとえば、父親は苦労しないまま子育てを終えてしまうとか。

ですから私は、出産後は父親に近くにいなさいといいました。どんなに大変でも里帰り出産は避ける。その時期に、父親がしっかり育児参加をすることで、責任と愛情も生まれると思うからです。私は、やりすぎではないかと、たえず自問しながら孫育てを手伝っています。祖父母にまかせっきりにしてはいけません。それでは親が大人になっていけないでしょう。

祖父母も孫育てを、さみしさなどを埋める手段にしてはいけません。それは、自分の生き方として問題でしょう。孫は成長につれていつかは振り向かなくなる。子どもたちは確実に巣立っていきます。ですから祖父母は、自分を大事にしつつ孫の自立を助ける方向性が必要だと思います。「子育ては親育て」といわれますが、「祖父母育て」というものもあるかなと。

### ★父母も祖父母も いい時間を過ごすこと

父親の役割や出番が減ることに気をつけたいですね。そしてがんばりすぎず、がまんしないこと。子育ての責任は、基本的に父母にあるので、親の教育方針を尊重すること。私は丸ごと受け入れるほうですが、それぞれの役割をお互いに補いあうことが大切だと思います。親の考え方を尊重して子どもが混乱しないような配慮が必要でしょう。基本は、子どもが幸せになることです。子どもはかわいがったほうがいい。小さなことを怒っていたら、大事なことを言った時に聞かなくなります。あと、遊びなどで孫との秘密の思い出ができるといいですね。段ボールで秘密基地をつくったり、畑で作物を作ったり、手芸を

したり。

そして親には、「祖父母がみるのが当たり前」とは思ってほしくない。祖父母の時間や楽しみも大事にしてほしい。「ありがとう」の一言があったり、忙しそうなお母さんには逆に助けてくれたりと、そんな配慮があるとがんばれるものです。それから父母自身が、祖父母と同じようによい時間を過ごしてほしい。ちょっと息抜きできる幸せな時間。父母も祖父母もお互いに自分のための時間や空間を大事にしてほしいものです。

### ★地域の子どもとともに 幸せをめざして

孫がいてよかったと思うのは、とにかく笑いが生まれること。癒されます。孫からいろいろなエネルギーをもらえる。子どもにつきあって動き回らなければいけないから、自然に健康になる。

子どもにとっても、年配者が近くにいることで、老いや死のことを身近に感じ、命の大切さについて学べるのではないのでしょうか。

つかず離れずの距離感が大事。そして、お互いに自分の考えを押し付けなくて、なんでも話しあえる関係になれるといいですね。

それから、自分の家の子が幸せでも、地域の子どもたちが幸せでないと、ほんとうの幸せとはいえないでしょう。

私は、ご近所のお友だちと孫を預けたり、預かったりもしています。年配の人たちが、地域の子どもたちを見守ることで、みんなが幸せになり、自身の生きがいにもなります。そういうパワーをお互いに大事にしたい。ただその時、自分の余力でできること、これ以上はできないことをわきまえておくことが継続の秘訣かもしれません。

いまの私は、文庫体験や絵本体験を通して子育て、孫育てを楽しむ知恵やヒントをお伝えする機会が多いのですが、それは、渦中にある自分自身をも問われているのだと思います。



**日詰** WLBとは仕事と趣味、休養等あらゆる活動をふくめての生活のバランスをとっていくことですが、皆さんの思いや現在の状況についてお話ください。



**朝原** 妻（バルセロナオリンピック銅メダリスト 奥野史子氏）も私も非常に多忙な生活。二人の子どもは保育所に預けていますが、妻の両親や近所のおじちゃん、おばちゃんにお願いすることも。非常にありがたい状況です。妻が幼少から育った地域なのでコミュニティがあり、とても恵まれています。



2007年の大阪世界陸上に向けて準備を始めようとするとき、大阪ガス社員としての仕事、陸上選手としてのトレーニング、大学院でスポーツ振興の研究そして家庭とたくさんの方がいました。これでは本能的に勝負する陸上競技の世界ではやっていけない、集中したいと大学院は休学。その場その場に応じて自分が優先したい、力を入れたいことに集中すること、それを周りに賛同・協力してもらおうのが大事です。

私の成績は、周りの協力にあってのもので、ひとりで結果を出したわけではありません。

**日詰** コミュニティの力は大きい。それから

家族の協力を得るためにすごく努力されたんですね。WLBを進めていくときのカギになるかもしれません。

**奥田** もともとは神経内科医として延命医療をしていましたが、末期がんの方をサポートするホスピスに非常勤医として再就職。ところが、長男を妊娠すると、産休はないとあっけなくリストラ。同じ頃コーチングに出会い、自己実現理論を学んだことから、自分が死ぬ時後悔しない人生を送るにはどうしたらいいかを真剣に考えるように。ホスピスで満ち足りた表情で亡くなっていかれる方は異口同音に「自分はわがままだったがやりたいことはすべてやってきた。だから後悔することはなにもない」と。そこでフルコース人生（自分のしたいことをすべてする人生）という言葉をつくり、自分のフルコース人生設計図を作りました。

私は、本を出版したい、子どもと夫と幸せな家庭を築きたい、医師を続けて、精神科医になりたい、いろんな分野の友人を作って楽しいプライベート生活を送りたいというもの。毎日見て、意識しながらその時できることを少しずつ行動したら、10年経った今、ほぼ実現しています。今でも書き加えています。みなさんも自分のフルコース人生設計図を書かれることをお勧めします。仕事、家庭、趣味、友人づきあいといろいろな方面のバランスある設計図にするとよいでしょう。

**大川** 子育て中は、社会の中で自分だけが取り残されているような焦燥感を感じていました。そんな時、できる事から始めればいいと

平成21年度 第1回 ワーク・

私が元  
ワーク・ライ



アドバイスをもらい、子育てサークルを作って昨年まで18年間続けました。当時は、とにかく子育て中は母が輝くのが一番と様々な活動に参加しましたが、今思えば感謝の気持ちを



を忘れてただ突っ走っていたようにも思います。そんな私を夫は快く送りだしてくれるとともに、地域の皆さんには私と子どもとのコミュニケーション不足をたっぷり補っていただきました。

2000年には新たに子育て支援のNPO活動を始め、家庭を大事にすること、子育て中に母だけが輝けばいいわけではないことを常に心に留めるようにしています。

昨年孫を授かり、週1で孫育てをするというプレゼントをいただきました。

きづき、やり直しができてよかったと思っています。

**日詰** バランスをとって人生を築きあげていくことに遅い早いはありません。いつでもリカバリーできるということに勇気づけられますね。

**是永** 子育てしながら、市内の設計事務所に勤務していますが、WLBを考えながら日々過ごしています。子どもが病気の時、夫と交代で仕事を休み、看病しています。

夫が一番大事なパートナーです。

上司も「今は思い切り仕事ができない時期



平成21年度第1回ワーク・ライフ・バランス推進事業としてシンポジウム『わたしが元気になるワーク・ライフ・バランス』を平成21年12月5日（土）に開催し、市民約300名の参加をいただきました。

北京五輪銅メダリスト 朝原宣治氏による講演『私のいま・これから～私にとっての陸上・仕事・家庭』に続いて行いましたパネルディスカッション『やりたいことはすべてやる～私のワーク・ライフ・バランス』の様様をご紹介します。

かもしれないけれどいつか自分の思いや夢が実現できる時がくるから頑張っていこう」と励ましてくれます。

**奥田** 心は充電電池です。ストレスがかかるとエネルギーが抜けていきます。反対に楽しみや休息、リラックスするとエネルギーが入ります。そのとき心が望むことをすればいいのです。

心のエネルギーチェックをしてみましょう。100%は絶好調でハリがある状態、0は精魂尽き果てた状態だとすると、みなさんいま何%くらいだと感じますか。

80%以上の方は心身ともにエネルギーが十分です。新しいことにチャレンジするものいいし、苦手なことにチャレンジしてもいいですね。

50%から70%くらいの方。潜在能力はあるのですが、ストレスがあったり、体調が悪く疲れ気味の状態です。この場合は、仕事や活動は現状維持で自分にエネルギーを増やすことをどんどんやってみましょう。

40%以下の方は、非常にエネルギーレベルが低く、相当ストレスが体か心にたまっています。エネルギーを増やすことだけを考えてほしいですね。

この充電チェックは毎日することをおすすめします。エネルギーの上下を見てスケジュールを決めるのです。エネルギーレベルが低い時は、料理を手抜きしたり、先延ばしできる

ライフ・バランス推進事業

# 気になる フ・バランス

平成21年12月5日  
13:00～15:30

ものはしたりして、体にいい栄養をたっぷりとり、よく眠ります。このコントロールを素早くするためには、エネルギーを増やすもの（充電源）とエネルギーを減らすもの（ストレス）をあらかじめわけておくことが重要です。たとえば仕事では、企画会議が充電源で営業はストレスとか。自分の抱えているものを見るくせをつけるとエネルギーレベルが下がってきたら先送りやスロウダウンできます。

たとえば私が子どもと遊ぶ場合、体を動かすことは苦手なので、エネルギーレベルが下がっている時はキャッチボールは夫にお願いしています。楽にできることと無理してやっていることを区分けしておくといいです。心には5種類のエネルギー源があります。まずは健康ですね。体の健康は心の健康と直結しています。そして仕事。家事や地域の仕事もありますね。次は家庭や友人など人間関係、それから自分のための時間。自分の趣味や休息、勉強の時間です。最後にお金です。経済状況が切迫してくると健康を無視してでも働いたり、お金がないから病院にいけないとか。常に自分のバランスチェックをしていくことが大切です。



**日詰** 心の充電池が何時も満たされている、エネルギーがいつも発揮できるのが大事ですね。それでは最後にライフの部分はどうやって充実していったらいいか、酒井さんには市の施策やご自分のこれからについてお願いします。

**朝原** 選手時代からストレスをためないのが課題でした。もともと超プラス思考です。ほめられて調子にのらされるという育てられ方でしたので少しのことでへこたれません。オリンピックに行かなくては、成績を出さな



くてはと追い込む人もいますが、私はこの日はやらなくちゃというときはやり、そうでない時はさぼります。そうしないとがんばる時にがんばることができません。かつてもっともっとと追い込み過ぎて周りが見えなくなったことがあり、その反省からかもう一人の私が現れるのです。もう少しがんばれよという自分とこんなにかんばっても効果は出ないぞという二人の自分がバランスを取りながらコントロールしています。計画どおりしてもうまくいかないこともあります。こんなことでつまづいてと思うとすごくストレスに感じますのできっちりさをふだんからなくしています。もちろん大まかな流れはつかみませんが、かちっかちっやっていても人間なので気持ちが萎えてしまったり、体調がいつ崩れるかもわからない。目標に向かっている時にちょっと狂ったとしても、それぐらい想定範囲内だと思えるくらいの緩さを常にもっていること、完璧にこなそうと考えないということがストレス解消法だと思っています。

小中高校生を対象に多様な動き作りを行うことで基礎的な体力を養成するノビートラックアンドフィールドクラブの主任コーチをつとめています。子どもたちには体をたくさん動かして楽しみを味わったり、コミュニケーション能力をつけたり、人間の幅を広げたりしてほしいと願っています。多くの子どもたちに指導していくことが自分にとってもいい勉強になっています。自分の子育てに活かしているともいえ、仕事と家庭がうまくリンクしています。

**奥田** 私のフルコース人生設計図で最優先は健康で元気な子どもたちと家庭をつくること。これが自分への指示命令書です。無理しない、あせらない、くらべない3つのないを心掛けています。子育ては重労働で気力と体力を使いますし、周りと比べてあせったり、自分を責めたりしがちです。将来自分を支えてくれる人材を育てるという重要な仕事をしているのですから、誇りある大切な仕事です。

息子に「今度は僕も読める本を書いて」と言われたのでこれを来年の目標とし、出版社にお願いしています。来年私が子ども向けの本を出版できたら拍手してくださいね。

**大川** 感謝の気持ちと巡り合った方たちとのネットワークを大事にしていきたいと思えます。バランスをうまく保ったり、健康や経済的に支障ができてきたときに補いあえるよう、社会に目を向けていくことが大切です。



**是永** 誰かにやってもらうのではなく自分にとっていちばんよいバランスを見つけてそれにむかって頑張っていくことだと思います。これからの方たちに向けて仕事と家庭の両立も悪くないということを伝えていきたいですね。

**酒井** これからの若い皆さんが幸せに暮らすにはWLBは大事なことです。フランスなど子育てしながら働ける環境を整備した国では出生率も上がっています。日本でWLBを進めるうえでネックになるのは私たちぐら



いの年齢の男性がいかに理解するかだと思います。私と同じように仕事が第一、家庭は二の次で、家の都合で仕事を休みたいなどとは恥ずかしくていえないという時代を過ごされたかたも多いと思いますが、もう時代はかわりました。もはや景気は右肩あがりではなく、とにかく働き続けていれば給料が上がって楽になる状況ではありません。私たちは子育て支援策を立案する立場でありますので自らを反省しながらも、WLB施策をすすめていきたいと思っています。



アトリエサンゴ 川内ゆうじ氏（静岡市在住）による360°イラストポスターです。製作期間1カ月をかけて粘土で作成されました。第2回シンポジウムのポスターは配置をかえて撮影しました。

#### パネリスト

- 朝原宣治（あさはら のぶはる）氏  
北京五輪銅メダリスト
- 奥田弘美（おくだ ひろみ）氏  
作家・医師
- 大川美佐子（おおかわ みさこ）氏  
子育てサークル育成アドバイザー
- 是永理恵（これなが りえ）氏  
静岡市児童福祉専門分科会委員
- 酒井康之（さかい やすゆき）氏  
静岡市子ども青少年部長

#### コーディネーター

- 日詰一幸（ひづめ かずゆき）氏  
静岡大学教授

# もっと女性の力が 必要です

—— 株式会社 東海軒



女性の能力に期待する株式会社東海軒 山口敏明さんにお話を伺いました。

## 創業120年

当社はお弁当の製造業です。おかげさまで昨年12月をもちまして創業120年を迎えました。平日は3000食、休日など多い時は1万食のお弁当を製造しています。工場は24時間営業で午前2時には炊飯、煮物の調理の仕事が始まります。常時5～6名が宿直しています。女性からも宿直勤務をしたいとの希望はあるのですが、現在のところ、女性用宿直室の整備ができていないため残念ながら男性のみです。

## もっと女性の力を

職種としては、製造、事務、販売、配送、営業などがありますがどの職種でも女性が能力を発揮してくれています。

製造担当は調理、盛り付けを担当していますが、女性のセンスに頼っています。男性ですと盛り付けがワンパターンになりがちだったのですが、きれいに盛りつけたり、鮮やかさがあります。

販売担当は、お客様のニーズや質問に対して的確に答えてくれています。「煮物をもっと増やしてほしい」というお客様からの要望や質問など改善事項をノートに書いて知らせてくれます。また、サンプル展示の背景を明

るくするなど店内での陳列方法のアイデアについても提案があります。このような提案がサービス向上に役立っています。

一方、配送、営業には女性は1名ずつしかいないのですが、これからもっと増やしていきたい分野ですね。営業と配送は直接お客様と接します。特に商品をお届けする配送はお客様からの生の声を聞く機会が多いので女性が増えることによりお客様のニーズをより反映できます。あらゆるセクションでもっと女性が活躍することを目指しています。

## 母子家庭応援企業表彰受賞

平成19年6月19日「はたらく母子家庭応援企業表彰」を受賞しました。受賞理由は当時、母子家庭の母を8名（総従業員数の3.9%）雇用していること、その平均勤続年数が6年9か月であったことなどです。当社は家庭状況にかかわらずやる気があれば採用していますので、賞をいただいたことはとても驚きでした。

ご家族が病気など緊急の場合にはいつでも帰れるように配慮しています。特に製造担当の場合には、盛り付け作業を10人くらいでやりますが、一人が帰ったとしても残った仕事は残りの社員で対応します。お互いにいいよと言ひあていければ休み易いですね。一人でやる作業ではないのでお互いに信頼関係を持ってやってくれています。アットホームな雰囲気です。和気あいあいと楽しく作っていないとおいしいお弁当は作れませんから。



|      |                   |
|------|-------------------|
| 株式会社 | 東海軒               |
| 事業内容 | お弁当の製造・販売         |
| 所在地  | 静岡県駿河区南町9番1号      |
| 電話番号 | 054(654)6888      |
| 従業員数 | 男性70名、女性92名、計162名 |